

(別表第1の3)

## 評価結果概要表

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873500536
法人名	有限会社 すまいる
事業所名	グループホーム すまいる
所在地	伊予郡砥部町北川毛1442番地16
自己評価作成日	平成27年10月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 11 月 13 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者様の気持ちに寄り添い、安心して過して頂ける環境作りやコミュニケーションを大切にしています。</li> <li>・利用者様の健康管理に留意し、また、家族様との交流も大切にしています。</li> </ul>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設して13年を経過した事業所は、山間の静かな住宅の中にあり、季節の野菜や果物をもらうなど地域住民との深い関わりがある。また積極的な子供会活動があり、利用者は子供とふれ合う機会を多く持っている。「将来の自分(自分の家族)が入居したくなるようなグループホームをめざす。」という理念のもと、職員は「暖かくて家族が来やすい家庭のような事業所にした」と日々健闘している。今後も生活リハビリに力を入れ身体機能低下の防止を図る。そのためにも職員の資質向上を図り、細かい介護の技術向上をめざしたいと、全職員が意欲を持って取り組んでいる。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目  
(評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

## 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム すまいる

(ユニット名) 1F

記入者(管理者)

氏名 鐵宮 翔太

評価完了日 平成 27年 10 月 3 日

(別表第1)

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「自分が住みたい場所」と言う事をキーワードにケアする時も常に自分に置き換えて見ると言う事を職員間で話し合い、意識づけしています。また、職員の名札の裏や、ホール内にも目につく所に理念を張り出し、いつでも初心に戻れる様、確認できるようにしている。</p> <p>(外部評価) 職員全員で話し合い「将来自分や家族が入居したくなるグループホームを目指します。」という理念を作成している。理念は、事務所やリビングに掲示しており、理念に沿ったケアができていのかどうか日々の業務の中で話し合っている。また、職員の名札の裏に記載し確認しながら実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地区の祭りや町内の文化祭等、行事への参加をし、地区の一員として暮らす事を心がけている。また、ご近所の方々との挨拶や会話を始め、おすそ分けを頂いたり、近所のお子さんとの交流もある。事業所自体も町内会の加入や回覧板の持ち回り、清掃活動等の役割分担をしている。</p> <p>(外部評価) 町内会に加入し回覧板で地域の行事等の情報を共有している。文化祭や地域の清掃に参加したり、秋祭りには神輿が事業所に入り利用者と一緒に参加し楽しんでいる。子供会活動が盛んで伝統の獅子舞や伊予万歳の公演に参加している。事業所の周りを散歩し挨拶を交わしたり、農家の方から季節の野菜や果物をいただくなど、地域と日常的に交流している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進委員会のメンバーに在宅で認知症介護されている方もおられ、話を伺ったり、アドバイスさせて頂く機会も増えた。また、地域密着型になってからは、利用者や面会の方もスタッフの顔見知りである事も多くなり、以前より認知症介護の話題や相談を受ける事も多くなっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 定期的にテーマを決め開催、家族様や地域の方々にも参加し て頂き、意見交換の場となっている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、町介護福祉課職員、地域住 民、家族、職員の参加を得て開催している。消防訓練、昼食 試食会、体操教室、すいか割大会など、テーマを掲げて意見 交換している。内容によってはアンケートを取り意見を聞き、そこでの意見をサービス向上に活かしていけるよう取り 組んでいる。</p>	<p>テーマを掲げて開催し家族の参加も増えているが、参 加者が固定化されている。地域との積極的な交流がで きているので、地域の代表者や多方面からの参加を呼 びかけ、事業所の取り組みやサービス利用状況を報告 し、積極的な意見交換ができ、サービス向上に活かし ていけるよう取組みに期待する。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 市町村には定期的な講習会があり、参加している。他に町の 派遣事業の相談員が毎月訪問し、利用者の要望を聞いて下さ り、担当職員と話し合いを持ったり、町担当課との連絡役と なって下さっている。 利用者に関する申請手続き等でも、随時担当課を訪れ、地域 包括のケアマネジャーや職員とも常に協力している。</p> <p>(外部評価) 町職員には、毎回運営推進会議に参加してもらい情報交換し ている。町主催の介護支援専門委員会や講習会に参加した り、利用者の申請手続きで役場に出向く際も、地域包括支援 センターから空き状況の情報を得るなど協力関係ができてい る。また、毎月介護相談員の訪問があり利用者の話を聞いた り事業所へのアドバイスも受けている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 玄関、ホールの入り口は夜間の防犯以外には施錠はしておら ず、職員の見守りを重視している。 また、研修への参加を心がけ、全職員意識づけ出来る様、発 表の機会を持っている。</p> <p>(外部評価) 身体拘束については、研修に参加したり職員間で話し合うな ど、常に問題意識を持ちケアに努めている。また、年に1回 職員対象に身体拘束に関するアンケート調査を実施し、アン ケート結果について話し合い、内容によっては指導や講習会 を実施する等、身体拘束についての理解を深め日々業務を遂 行している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員同士で注意やフォローし合える関係作りや、毎年アンケート調査を実施し、問題があれば都度話し合い、解決に取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 先輩職員に尋ねたり、自分で調べたり、わからない事は早めに消化している。 また、外部研修に出来るだけ参加するようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ご家族には十分な説明、話し合いをし、納得して頂いた上で契約をしている。 契約後改正の加算報酬についても前もって文章にて連絡する等、その都度対処し、納得して頂いており、長期の利用や重度化に伴う料金の負担など、必要に応じてご家族と相談している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者に直接話しを伺ったり、家族の訪問時や家族会の時に、意見を聞ける様、努めている。 遠方の家族とも利用者の状態変化の時には、電話連絡をし、意見や希望を聞いている。 又、運営会や行事参加の時には、アンケートの実施等も行い、今後のケアの参考にしている。  (外部評価) 利用者との日々の関わりの中で意見や要望を聞いている。また利用者の居室をまわり話を聞いたり、顔色や表情などでくみ取っている。家族からは運営推進会議で意見や要望を聞いている。また、行事毎にアンケートを実施しており、アンケート結果は町に報告すると共に職員間で共有し日々のケアに活かしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 管理者は職員会で意見や提案を聞く機会を作ったり、出来るだけ現場の声が聞けるよう個別に話かけたりしている。また運営者も個別に話しが出来る様、懇親会や幹部ミーティングを実施し、多くの意見を取り上げ反映出来る様、努めている。</p> <p>(外部評価) 2か月に1回、職員会を開催しているほか年2回の懇親会や食事会等で、積極的な意見交換ができており、職員間のコミュニケーションは取れている。また、職員からの提案で調理専門の職員の配置や利用者の個別ケアを重視した対応に力を入れるなど、職員の意欲向上につながっている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 給与水準については同業他社等と情報交換し、一般水準は確保するよう努めている。 労働時間については、効率の良い仕事をしてもらう為、休憩時間にはゆっくりと気分転換できる様、休憩室等の環境整備も職員の意見を参考に整える努力をしている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 研修を希望するものについては積極的に受講するよう推奨し、受講費用等の負担は会社にて行っている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 県のグループホーム協会に加入し、そこで行われる相互研修の受講をさせている。人員に余裕が出来れば、色々な事に取り組んで行きたい。</p>	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居前に本人と面会し直接話したり、仕草、表情や動向を観察しながら、コミュニケーションを多く取る事で、利用者を知る事、自分達を受け入れて頂く事、ホームの生活に馴染んで頂ける様、努力している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族とも面接時や契約時には十分な話し合いを行い、意向を確認しながらケアの方向性を決めて説明している。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) アセスメントを行い本人の現状を把握し、医療的なサービスの提供の必要がある場合は医師と相談の上、外部のサービスも取り入れたり、様々なサービス案を検討している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 生活の中で、家事の手伝いや手作業など、一人一人出来る事を一緒にやり、個別で会話する時間を大切にしている。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会に来られた際には、些細な事でも近況を報告し、会話の中で以前の暮らしぶり等、情報を交換している。また、行事や何気ない日常生活を写真に残し、面会時に見て頂いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 会話の中で、地名や特産物の話しをしたり、長い間住まっていた周辺を、ドライブや散歩する機会を作っている。また、スーパーへの買い物やお正月には近くの八幡宮へ初詣に出かけたりしている。	
			(外部評価) 日々の会話の中で馴染みの人や場所を開き取り把握している。ドライブや行事計画時に参考にし懐かしい景色を味わってもらっている。また、家族から「利用者の声が聞きたい。」という連絡があった時は携帯で話をしてもらい、毎日の買い出しに利用者と一緒に出かけ知り合いと話をするなど、馴染みの関係が途切れないよう努めている。2～3か月に1回の美容室の訪問を楽しみにしており、新しい馴染みの関係ができています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 外気浴やレクリエーション等、全員でコミュニケーションが取れる時間を大切にしている。常に全体を見て、孤立している方のフォローが出来る様、気をつけている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去後もご家族や利用者の方にお会いする機会があれば、挨拶や近況をお伺いしたりと、良い関係が続けられている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 出来る限り、ご本人の思いに添える様に、会話や表情の変化を見逃さない様努めている。ご本人が訴え困難な場合は、ご家族と話し合い、希望をお聞きしたり、職員間で都度、話し合う機会を作っている。 (外部評価) 入居時に利用者や家族から思いや意向を聞いている。入居してからは職員が日々の会話の中で、どんな生活をしたいか聞くなど、利用者の希望や意向の把握に努めている。なお、聞き取りが困難な場合は表情により判断し把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 日常の何気ない会話の中や、ご家族の面会時に、個々の生活歴や情報を提供して頂いている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日誌や介護記録を活用。細かい事も都度、話し合う機会を作り、色々と検討している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 介護計画作成時には、ご本人やご家族の希望も事前にお聞きし、職員間の意見、話し合いのもと、利用者毎の担当職員が原案を作成し、計画作成担当者が手直しをしている。 モニタリングに関しては状態に応じ、定期的にスタッフ全員で行い、計画作成やケア時、参考にしている。</p> <p>(外部評価) 介護計画は利用者や家族の思いや意向に沿って作成しており、入居後1～2か月経過した時点で職員間で話し合い見直しを行っている。また、生活が安定するに従い6か月毎に見直しを行い、それと同時にモニタリングを実施している。家族からは事前に電話や面会時に要望を聞き取り、現状に即した介護計画の作成ができています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 日々の出来事を、日誌や介護記録に残し、職員間で情報を共有し、細かい事も改善策があれば、その都度話し合い、定期的に職員会も開催している。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ADLに応じた対応を心がけている。 例えば、居室に手摺りを付けたり、車椅子を改善。在宅マッサージやリハビリ通院の介助、衣料品や食料品の買い物に同行したり、時には外食や外出を楽しんで頂ける様、機会を作っている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 町の文化祭などの行事に参加したり、行きつけの衣料品店、外食等、本人の要望や身体的状況に応じて支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>ホームには協力医療機関の担当の主治医がいる為、本人及び 家族に事前に説明し、納得して入所して頂いているが、協力 医療機関が町内にある為、殆どどの利用者がその医療機関を かかりつけ医とされている。月2回の往診と緊急時にも対応 して頂け、常日頃から身体状況を把握して下さっているの で、ご家族も安心されている。協力医療機関に受診したい診 療科が無い場合や、病気の関係で他にもかかりつけ医を持た れている場合は、付き添いされる家族様と常に情報交換を 行ったり、職員が同行したりと本人や家族の希望を優先して いる。</p> <p>(外部評価)</p> <p>入居時に協力医療機関の説明をしており、ほとんどの利用者 が協力医をかかりつけ医としている。協力医療機関が総合病 院のため主治医の内科、脳神経外科医師の定期的な往診や皮 膚科、整形外科、心療内科等受診も可能のほか24時間緊急 時の対応もあるため、利用者や家族には安心感がある。ま た、手術等のため他の病院の受診が必要な場合は、家族が付 き添っているが、診療情報は共有し健康管理は万全である。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価)</p> <p>協力医療機関の看護師は、往診時の同行や、受診時のサポ ート等、利用者とも顔見知りで付き合いも長い為、状態もよく 把握してくださっており、職員も色々相談に乗って頂いて いる。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価)</p> <p>協力医療機関が総合病院であり、入院の殆どのケースが協力 機関への入院の為、これまでに日常的にも情報交換や相談が 出来ている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>看取りに関しては、ご本人、家族の意向を出来る限り尊重し たいと考えております。ご家族にも入所時以外にも状態に応 じて話し合う機会を持ち、看取りについての事前確認書等 での意思確認も行い、また主治医との相談体制も出来ている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>看取りについては、指針が作成され職員の勉強会により周知 徹底できており、利用者や家族の要望に沿って対応できる体 制である。現在までに1名の看取りの事例があるが、状態に 合わせて入院となるケースが続いており、今後も利用者や家 族等関係者と連携を図り、安心して最期を迎えられるよう支 援していく方針である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的ではないが、年に1、2回施設内研修を行ったり、外部研修の参加を実施している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回ほど消防署にご協力して頂き、ご家族や地元住民の方にも参加頂いて、防火訓練や非難訓練を行っている。また地域消防団、地区役員、ご近所の方へも常に協力をお願いをし、承諾を頂いている。 (外部評価) 年に2回、消防署の立会いの下、地元消防団員と家族の参加を得て避難訓練を実施しており、階段降下訓練や通報訓練を行い、避難場所やスプリンクラー設備の確認を行い非常事態に備えている。また、テレビ台を固定するなど地震対策をしており、備蓄品は水・米・乾物など5日分程度確保している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉の使い方や会話の内容に十分注意し、相手の気持ちになって考えながらの対応を心がけている。例えば、基本的な事ですが、視線を合わせて話す等、威圧的にならない様注意したり、自力でゆっくり食事する利用者を急がず事なく見守ったり、トイレや入浴時はドアをきちんと閉め、ズボンや下着がきちんと上げられない方については、早めに気付き、声のかけ方に気をつける等、プライバシーに十分配慮するようにしている。 (外部評価) トイレや居室の入口の戸は閉める、利用者本人に関わることで以外は話さない、人生の先輩としての言葉使いに気を付ける、馴れ合いでの対応をしないなど、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 週に一度の献立作成時に、食べたい物をメニューに取り入れたり、買い物時におやつを選んで頂いたりしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々の生活リズムを把握し、ご自分の時間を大切にされている時は見守りを行ったり、長く1人でおられる時は声をかけたりと、必ず気にとめている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 天候や季節に応じた洋服を準備したり、ご本人が選ばれる際には見守りや適度な声かけをしている。起床時の整髪や爪切り、洋服が汚れている時は声かけに気をつけ、交換して頂ける様支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 季節の物を取り入れた献立を考えている。色どりや盛り付け、ADLに合わせた食事形態の工夫をしたり、食器やスプーンも個々により様々で、ご自分の力で少しでも食べれるように支援している。また、配膳や下膳時、食事時間の表情や仕草にも気を配り、適度な声かけを行ったり、個別での会話も大切に、食事を楽しんで頂ける様にしている。	
			(外部評価) 入居時に利用者や家族から好物を確認している。また、日頃の生活の中で好きな食物を聞き取り誕生日のメニューに取り入れている。食事は自力摂取に力を入れており、グリップスプーンの使用や一口大のおにぎり、刻み食、とろみ食、ミキサー食など食事形態にも配慮している。昼食は調理専任の職員を配置し、職員は余裕を持って利用者との時間を大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人一人の適正量や食事形態をしっかり把握し、日々の体調の変化を見て、調節している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアを実施し、個々によって歯磨き粉、マウスウォッシュ、歯磨きティッシュ等使い分け、介助や見守りにて磨き残しが無い様支援している。週一回、必ず義歯の洗浄を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排尿チェック表を活用。個々の排尿パターンを把握し、訴えの無い方は、時間や様子を見て、トイレ誘導を行ったり、また、自発がある方も、長い間行かれない時は、声かけをしている。オムツ使用の方でも排尿量や便秘対策で、トイレに座って頂き介助する事もある。	
			(外部評価) 排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行いトイレでの排泄支援を行っている。座位の取れない1名の利用者はやむを得ず一日中オムツを使用しているが、それ以外の利用者は、夜間はオムツ対応であるが、日中はリハビリパンツの対応にする等利用者の状態に合わせて支援している。退院時にオムツ使用の利用者は1日1回の立位訓練を行った結果、トイレ誘導で二人介助から一人介助となり便意がもどるなど自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分を多く摂って頂いたり、適度な運動を促している。また、日頃から、お茶寒天やヨーグルトなどの提供をしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 設備上の問題から、曜日や時間帯は決まっているが、入浴の順番を固定せず、ご本人の希望を聞いたり、その日の体調に合わせて、入浴の順番や入浴日を変更する等、臨機応変に対応している。また、入浴剤を使用したり、季節感を味わせる様、ゆず湯やみかん湯にしたり、色や香りを楽しんで頂いている。	
			(外部評価) 週2回を基本として、その日の体調に合わせて入浴している。浴室はリフト浴、三方から介助できる個浴を設置し床暖房が備えられている。利用者の希望に合わせて同性介助を行い、入浴の順番を考慮するなど利用者一人ひとりが気持ちよく入浴できるよう支援している。また、入浴の苦手な利用者は散歩の後に入浴を勧めたり、職員が代わって声かけする等工夫によりスムーズに入浴ができています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 居室の温度や証明の明るさに気をつけている。日中の活動量を増やし、夜間良眠出来る様にしている。また、心配事を訴えられる時には、ゆっくり傾聴、心配事を取り除ける様、寄り添うようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 全員が、内服薬を把握、受診、往診時等、薬に変化があった場合は、処方箋連絡ノートを活用し、常に情報を共有している。内服時も二度、三度確認する習慣をつけ、服薬後も口腔内の確認、飲み残しが無いか、確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 得意な事や趣味を活かせる役割を、無理強いしない様促し、お手伝いして頂いた際は、“ありがとう”と何度も声かけしている。今ではそれぞれに役割も出来ており、ご本人から、声をかけて下さっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 買い物への同行や、地域行事への外出が出来ている。天候によって左右するが、外気浴や散歩、近くの公園へ出かけたりしている。 (外部評価) 時候や天気に合わせて事業所周辺の池や公園を散歩している。利用者と一緒に買い物に出かけたり衣料品店にも立ち寄っている。また、その日の雰囲気ですoftクリームを食べに出かけたり、季節に合わせてコスモスや七折梅の見物や道の駅に出かけて楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個々の管理能力の問題でご家族と相談、了承の上で事務所預かりとさせて頂いている方が多いが、外出先でホームへのお土産を買う時に、お金を渡して貰ったり、近くの施設の祭りで、食券を使ってご自分が買い物される時は大変活き活きとされていた。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ホーム内には、専用の携帯電話もあり、ご家族からの電話の際、居室などでも、ゆっくり話して頂ける様支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>毎朝掃除を行い、ホール内の温度や明るさに気をつけている。夏は除湿、冬は加湿と湿度にも気をつけている。ホール窓から見える場所に、季節の野菜や花を植えたり、壁画も毎月変え、楽しんで頂いている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>毎日利用者と一緒に掃除をして、清潔な環境の中で過ごすことができている。冬季はエアコンは使用せずにリビング、トイレ、居室など全面を床暖房で対応している。また加湿器を設置して乾燥しないように気を付けているほか、温度や湿度に気を付け感染予防対策を図っている。リビングは毎月季節を感じられる壁画を飾り、居心地よく過ごせるように工夫している。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>様子を観ながら、テーブル席の配置変えをしたり、時に1F・2F関係なく行き来したりしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>個々の馴染みの生活用品を持ち込み使用したり、温度や明るさ等の環境にも注意している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室はベッド、エアコンを設置しており、各ユニットに畳部屋を2部屋設け利用者の身体状況や生活スタイルに合わせて選択している。使い慣れた寝具や整理ダンス、テレビ、仏壇を持ち込み家族の写真を飾るなど、利用者一人ひとりが穏やかに過ごすことができるように配慮されている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>トイレの場所をいくつも表示したり、背の高さに合わせ、表札や表示物の位置に気をつけ、ご自分が確認出来る様、工夫している。また、必要場所の手摺りの設置やL字ベッド柵、車椅子や机の高さ等、個々の能力に応じて工夫している。</p>	

(別表第1の3)

## 評価結果概要表

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873500536
法人名	有限会社 すまいる
事業所名	グループホーム すまいる
所在地	伊予郡砥部町北川毛1442番地16
自己評価作成日	平成27年10月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 11 月 13 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者様の気持ちに寄り添い、安心して過して頂ける環境作りやコミュニケーションを大切にしています。</li> <li>・利用者様の健康管理に留意し、また、家族様との交流も大切にしています。</li> </ul>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設して13年を経過した事業所は、山間の静かな住宅の中にあり、季節の野菜や果物をもらうなど地域住民との深い関わりがある。また積極的な子供会活動があり、利用者は子供とふれ合う機会を多く持っている。「将来の自分(自分の家族)が入居したくなるようなグループホームをめざす。」という理念のもと、職員は「暖かくて家族が来やすい家庭のような事業所にした」と日々健闘している。今後も生活リハビリに力を入れ身体機能低下の防止を図る。そのためにも職員の資質向上を図り、細かい介護の技術向上をめざしたいと、全職員が意欲を持って取り組んでいる。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目  
(評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

## 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム すまいる

(ユニット名) 2F

記入者(管理者)  
氏名 鐵宮 翔太

評価完了日 H27年 10 月 3 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「自分が住みたい場所」という事をキーワードにケアする時も常に自分に置き換えて見ると言う事を職員間で話し合い、意識づけしています。また、職員の名札の裏や、ホール内にも目につく所に理念を張り出し、いつでも初心に戻れる様、確認できるようにしている。</p> <p>(外部評価) 職員全員で話し合い「将来自分や家族が入居したくなるグループホームを目指します。」という理念を作成している。理念は、事務所やリビングに掲示しており、理念に沿ったケアができていのかどうか日々の業務の中で話し合っている。また、職員の名札の裏に記載し確認しながら実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地区の祭りや町内の文化祭等、行事への参加をし、地区の一員として暮らす事を心がけている。また、ご近所からおすそ分けを頂いたり、近所のお子さんとの交流もある。事業所自体も町内会の加入や回覧板の持ち回り、清掃活動等の役割分担をしている。</p> <p>(外部評価) 町内会に加入し回覧板で地域の行事等の情報を共有している。文化祭や地域の清掃に参加したり、秋祭りには神輿が事業所に入り利用者と一緒に参加し楽しんでいる。子供会活動が盛んで伝統の獅子舞や伊予万歳の公演に参加している。事業所の周りを散歩し挨拶を交わしたり、農家の方から季節の野菜や果物をいただくなど、地域と日常的に交流している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進委員会のメンバーに在宅で認知症介護されている方もおられ、話を伺ったり、アドバイスさせて頂く機会も増えた。また、地域密着型になってからは、利用者や面会の方もスタッフの顔見知りである事も多くなり、以前より認知症介護の話題や相談を受ける事も多くなっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 議題は行事参加や家族会、非難訓練の勉強会等、様々なテーマで行っている。参加者も地区役員や家族、職員等、出来るだけ多くの参加を呼びかけ、意見交換出来るように努めている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、町介護福祉課職員、地域住民、家族、職員の参加を得て開催している。消防訓練、昼食試食会、体操教室、すいか割大会など、テーマを掲げて意見交換している。内容によってはアンケートを取り意見を聞き、そこでの意見をサービス向上に活かしていけるよう取り組んでいる。</p>	<p>テーマを掲げて開催し家族の参加も増えているが、参加者が固定化されている。地域との積極的な交流ができているので、地域の代表者や多方面からの参加を呼びかけ、事業所の取組みやサービス利用状況を報告し、積極的な意見交換ができ、サービス向上に活かしていけるよう取組みに期待する。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 市町村には定期的な講習会があり、参加している。他に町の派遣事業の相談員が毎月訪問し、利用者の要望を聞いて下さり、担当職員と話し合いを持ったり、町担当課との連絡役となつて下さっている。 利用者に関する申請手続き等でも、随時担当課を訪れ、地域包括のケアマネジャーや職員とも常に協力している。</p> <p>(外部評価) 町職員には、毎回運営推進会議に参加してもらい情報交換している。町主催の介護支援専門委員会や講習会に参加したり、利用者の申請手続きで役場に出向く際も、地域包括支援センターから空き状況の情報を得るなど協力関係ができてい。また、毎月介護相談員の訪問があり利用者の話を聞いたり事業所へのアドバイスも受けている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 玄関、ホールの入り口は夜間の防犯以外には施錠はしておらず、職員の見守りを重視している。 また、研修への参加を心がけ、全職員意識づけ出来る様、発表の機会を持っている。</p> <p>(外部評価) 身体拘束については、研修に参加したり職員間で話し合うなど、常に問題意識を持ちケアに努めている。また、年に1回職員対象に身体拘束に関するアンケート調査を実施し、アンケート結果について話し合い、内容によっては指導や講習会を実施する等、身体拘束についての理解を深め日々業務を遂行している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員同士で注意やフォローし合える関係作りや、毎年アンケート調査を実施し、問題があれば都度話し合い、解決に取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 先輩職員に尋ねたり、自分で調べたり、わからない事は早めに消化している。 また、外部研修に出来るだけ参加するようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ご家族には十分な説明、話し合いをし、納得して頂いた上で契約をしている。 契約後改正の加算報酬についても前もって文章にて連絡する等、その都度対処し、納得して頂いており、長期の利用や重度化に伴う料金の負担など、必要に応じてご家族と相談している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者に直接話しを伺ったり、家族の訪問時や家族会の時に、意見を聞ける様、努めている。 遠方の家族とも利用者の状態変化の時には、電話連絡をし、意見や希望を聞いている。 又、運営会や行事参加の時には、アンケートの実施等も行い、今後のケアの参考にしている。  (外部評価) 利用者との日々の関わりの中で意見や要望を聞いている。また利用者の居室をまわり話を聞いたり、顔色や表情などでくみ取っている。家族からは運営推進会議で意見や要望を聞いている。また、行事毎にアンケートを実施しており、アンケート結果は町に報告すると共に職員間で共有し日々のケアに活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 管理者は職員会で意見や提案を聞く機会を作ったり、出来るだけ現場の声が聞けるよう個別に話かけたりしている。また運営者も個別に話しが出来る様、懇親会や幹部ミーティングを実施し、多くの意見を取り上げ反映出来る様、努めている。</p> <p>(外部評価) 2か月に1回、職員会を開催しているほか年2回の懇親会や食事会等で、積極的な意見交換ができており、職員間のコミュニケーションは取れている。また、職員からの提案で調理専門の職員の配置や利用者の個別ケアを重視した対応に力を入れるなど、職員の意欲向上につながっている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 給与水準については同業他社等と情報交換し、一般水準は確保するよう努めている。 労働時間については、効率の良い仕事をしてもらう為、休憩時間にはゆっくりと気分転換できる様、休憩室等の環境整備も職員の意見を参考に整える努力をしている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 研修を希望するものについては積極的に受講するよう推奨し、受講費用等の負担は会社にて行っている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 県のグループホーム協会に加入し、そこで行われる相互研修の受講をさせている。人員に余裕が出来れば、色んな事に取組んで行きたい。</p>	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居前に本人と面会し直接話したり、仕草、表情や動向を観察しながら、コミュニケーションを多く取る事で、利用者を知る事、自分達を受け入れて頂く事、ホームの生活に馴染んで頂ける様、努力している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族とも面接時や契約時には十分な話し合いを行い、意向を確認しながらケアの方向性を決めて説明している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) アセスメントを行い本人の現状を把握し、医療的なサービスの提供の必要がある場合等は医師と相談の上、外部のサービスも取り入れたり、様々なサービス案を検討している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 食事やおやつを共にし、また、掃除、家事等それぞれに出来る事を一緒に行い、常に寄り添うケアを心がけている。時には悩み事の相談を受け、お互いに良く話し合ったり、スキンシップを取る様にしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には食事介助や散歩を一緒に手伝って頂いたり、行事にもお誘いしている。また、日常生活の中で、ご本人がご家族に関わる言葉や思い出を話されたりした時には、面会時に話の話題にさせて頂き、一緒に過ごしていない時間の距離を埋め、安心して頂ける様、努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族以外にも友人や知人との付き合いが途絶えない様、地元スーパーに買い物に行ったり、町の行事に参加する等、馴染みの場所に出掛けられる様支援しています。	
			(外部評価) 日々の会話の中で馴染みの人や場所を聞き取り把握している。ドライブや行事計画時に参考にし懐かしい景色を味わってもらっている。また、家族から「利用者の声が聞きたい。」という連絡があった時は携帯で話をしてもらい、毎日の買い出しに利用者と一緒に出かけ知り合いと話をするなど、馴染みの関係が途切れないよう努めている。2～3か月に1回の美容室の訪問を楽しみにしており、新しい馴染みの関係ができています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 皆で一つのテーブルに集まって話しをする機会を作ったり、職員が橋渡しする事で、普段あまりお話をされない方でも楽しく会話されている。また、個々の性格を把握し、相性も考慮してテーブル席の配置等も気をつけている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ご家庭の事情で住み替えが必要となった方には、移り住む先の関係者に情報提供を行い、退去後も電話連絡等にて様子を伺ったり、ご家族に偶然お会いした時には、その後の様子を伺う等、少しでも相談に乗れる様努めている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者との会話の中から、その思いや意向を聞き、職員が把握、実践出来るようにしている。 意思疎通が難しい方でも、家族面会時にお話を伺い、また、その方のちょっとした表情変化も見逃さないようにして、職員間で情報交換している。 (外部評価) 入居時には利用者や家族から思いや意向を聞いている。入居してからは職員が日々の会話の中で、どんな生活をしたいか聞くなど、利用者の希望や意向の把握に努めている。なお、聞き取りが困難な場合は表情により判断し把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 日頃の会話の中で、生活歴が聞けるような働きかけをしたり、アセスメントシートや家族との会話から、把握できる様にしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 時間の許す限り寄り添い、心身状態の変化を見逃さない様、努めている。また、個別の介護記録や健康管理表を活用し、スタッフ全員が目を通す事で、常に情報交換出来るようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 定期的にカンファレンスを行い、問題があった時はその場で話し合いの時間をもち、ご家族面会時は現状を伝え、相談した上でケアプランの作成に繋げている。	
			(外部評価) 介護計画は利用者や家族の思いや意向に沿って作成しており、入居後1～2か月経過した時点で職員間で話し合い見直しを行っている。また、生活が安定するに従い6か月毎に見直しを行い、それと同時にモニタリングを実施している。家族からは事前に電話や面会時に要望を聞き取り、現状に即した介護計画の作成ができています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の記録、日誌の気付き欄、情報交換ノートの活用をし、また引継ぎ時にも情報交換し、把握できるようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 個々に合わせた介護を提供するように心がけている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 町の文化祭などの行事に参加したり、行きつけの衣料品店、外食等、本人の要望や身体的状況に応じて支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<p>(自己評価) ホームには協力医療機関の担当の主治医がいる為、本人及び家族に事前に説明し、納得して入所して頂いているが、協力医療機関が町内にある為、殆どどの利用者がその医療機関をかかりつけ医とされている。月2回の往診と緊急時にも対応して頂け、常日頃から身体状況を把握して下さっているの で、ご家族も安心されている。協力医療機関に受診したい診療科が無い場合や、病気の関係で他にもかかりつけ医を持たれている場合は、付き添いされる家族様と常に情報交換を行ったり、職員が同行したりと本人や家族の希望を優先している。</p> <p>(外部評価) 入居時に協力医療機関の説明をしており、ほとんどの利用者が協力医をかかりつけ医としている。協力医療機関が総合病院のため主治医の内科、脳神経外科医師の定期的な往診や皮膚科、整形外科、心療内科等受診も可能のほか24時間緊急時の対応もあるため、利用者や家族には安心感がある。また、手術等のため他の病院の受診が必要な場合は、家族が付き添っているが、診療情報は共有し健康管理は万全である。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<p>(自己評価) 協力医療機関の看護師は、往診時の同行や、受診時のサポート等、利用者とも顔見知りで付き合いも長い為、状態もよく把握してくださっており、職員も色々と相談に乗って頂いている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 協力医療機関が総合病院であり、入院の殆どのケースが協力機関への入院の為、これまでに日常的にも情報交換や相談が出来ている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 看取りに関しては、ご本人、家族の意向を出来る限り尊重したいと考えております。ご家族にも入所時以外にも状態に応じて話し合う機会を持ち、看取りについての事前確認書等での意思確認も行い、また主治医との相談体制も出来ている。</p> <p>(外部評価) 看取りについては、指針が作成され職員の勉強会により周知徹底できており、利用者や家族の要望に沿って対応できる体制である。現在までに1名の看取りの事例があるが、状態に合わせて入院となるケースが続いており、今後も利用者や家族等関係者と連携を図り、安心して最期を迎えられるよう支援していく方針である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的ではないが、年に1、2回施設内研修を行ったり、外部研修の参加を実施している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回ほど消防署にご協力して頂き、ご家族や地元住民の方にも参加頂いて、防火訓練や非難訓練を行っている。また地域消防団、地区役員、ご近所の方へも常に協力をお願いをし、承諾を頂いている。  (外部評価) 年に2回、消防署の立会いの下、地元消防団員と家族の参加を得て避難訓練を実施しており、階段降下訓練や通報訓練を行い、避難場所やスプリンクラー設備の確認を行い非常事態に備えている。また、テレビ台を固定するなど地震対策をされており、備蓄品は水・米・乾物など5日分程度確保している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉の使い方や会話の内容に十分注意し、相手の気持ちになって考えながらの対応を心がけている。例えば、基本的な事ですが、視線を合わせて話す等、威圧的にならない様注意したり、自力でゆっくり食事する利用者を急がず事なく見守ったり、トイレや入浴時はドアをきちんと閉め、ズボンや下着がきちんと上げられない方については、早めに気付き、声のかけ方に気をつける等、プライバシーに十分配慮するようにしている。  (外部評価) トイレや居室の入口の戸は閉める、利用者本人に関わること以外は話さない、人生の先輩としての言葉使いに気を付ける、馴れ合いでの対応をしないなど、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の訴えを聞き入れられる様、行動、表情を見る様、心がけている。衣服の選択や食べたい物など、出来るだけご本人が自己決定出来るような場面設定を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者の行動や思っている事を考え、声かけを行う様心がけている。たとえば、窓の外をボーと見られている方には、「外に行ってみますか？」などの声かけと共に、同行の時間を作っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 天候や季節に応じた洋服を準備したり、ご本人が選ばれる際には見守りや適度な声かけをしている。起床時の整髪や爪切り、洋服が汚れている時は声かけに気をつけ、交換して頂ける様支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 季節の物を取り入れた献立を考えている。色どりや盛り付け、ADLに合わせた食事形態の工夫をしたり、食器やスプーンも個々により様々で、ご自分の力で少しでも食べれるように支援している。また、ご本人の誕生日メニューには、ご本人の好みの献立を考えたり、献立作成時にも利用者の意見を取り入れ、楽しみを持って下さる様支援している。  (外部評価) 入居時に利用者や家族から好物を確認している。また、日頃の生活の中で好きな食物を聞き取り誕生日のメニューに取り入れている。食事は自力摂取に力を入れており、グリップスプーンの使用や一口大のおにぎり、刻み食、とろみ食、ミキサー食など食事形態にも配慮している。昼食は調理専任の職員を配置し、職員は余裕を持って利用者との時間を大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 病状により、薄味にしたり、ドレッシングをノンオイルにしている。食材の大きさも個々で分け、ミキサー食等対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、個々の健康状態、能力に応じて見守り、介助をしている。定期的に義歯洗浄を行い、歯ブラシの種類を変えたり、歯磨きティッシュを利用したり、磨き残しなどのチェック及び口腔状態の観察に留意している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排尿チェック表を活用。個々の排尿パターンを把握し、訴えの無い方は、時間や様子を見て、トイレ誘導を行ったり、また、自発がある方も、長い間行かれない時は、声かけをしている。オムツ使用の方でも排尿量や便秘対策で、トイレに座って頂き介助する事もある。	
			(外部評価) 排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行いトイレでの排泄支援を行っている。座位の取れない1名の利用者はやむを得ず一日中オムツを使用しているが、それ以外の利用者は、夜間はオムツ対応であるが、日中はリハビリパンツの対応にする等利用者の状態に合わせて支援している。退院時にオムツ使用の利用者は1日1回の立位訓練を行った結果、トイレ誘導で二人介助から一人介助となり便意がもどるなど自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分を多く摂って頂いたり、立位や階段昇降、散歩等適度な運動を促している。また、日頃から、お茶寒天やヨーグルトなどの提供をしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 設備上の問題から、曜日や時間帯は決まっているが、入浴の順番を固定せず、ご本人の希望を聞いたり、その日の体調に合わせ、入浴の順番や入浴日を変更する等、臨機応変に対応している。また、入浴剤を使用したり、季節感を味わえる様、ゆず湯やみかん湯にしたり、色や香りを楽しんで頂いている。	
			(外部評価) 週2回を基本として、その日の体調に合わせて入浴している。浴室はリフト浴、三方から介助できる個浴を設置し床暖房が備えられている。利用者の希望に合わせて同性介助を行い、入浴の順番を考慮するなど利用者一人ひとりが気持ちよく入浴できるよう支援している。また、入浴の苦手な利用者は散歩の後に入浴を勧めたり、職員が代わって声かけする等工夫によりスムーズに入浴ができています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 室温、部屋の明るさ、寝具の調節などに気を配っている。また、体調に応じて日中でも休める時間を持つ様になっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋をいつでも見れる様にし、個々に把握する様努めている。また、主治医に相談し、薬の形状を個々のADLに合わせて変えて頂く等、飲みやすくしている。誤薬や飲み忘れが無い様、職員間で声を掛け合い確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 声かけや会話の中から生活歴の情報を得て、機能や能力に応じて、一人一人に役割が出来る様支援している。今では洗濯たたみや新聞取りなど、ご本人から声をかけて下さっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外気浴や買い物に出かける機会を作っている。ドライブ、喫茶店等へのレクリエーションも実施している。	
			(外部評価) 時候や天気に合わせて事業所周辺の池や公園を散歩している。利用者と一緒に買い物に出かけたり衣料品店にも立ち寄っている。また、その日の雰囲気ですoftクリームを食べに出かけたり、季節に合わせてコスモスや七折梅の見物や道の駅に出かけて楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 今現在は個々の管理能力の問題で、お金を所持されている方はおられないが、以前はご本人が管理し、おやつや必要な物を買に行かれたりされていた。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ホーム内には、専用の携帯電話もあり、ご家族からの電話の際、居室などでも、ゆっくり話して頂ける様支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 毎朝掃除を行い、ホール内の温度や明るさに気をつけている。夏は除湿、冬は加湿と湿度にも気をつけている。台所の調理の音や臭いで時間経過を感じて頂いたり、手作りの壁画を季節毎に変えたり、季節の花を生ける事で居心地良く過ごして頂く工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 毎日利用者と一緒に掃除をして、清潔な環境の中で過ごすことができている。冬季はエアコンは使用せずにリビング、トイレ、居室など全面を床暖房で対応している。また加湿器を設置して乾燥しないように気を付けているほか、温度や湿度に気を付け感染予防対策を図っている。リビングは毎月季節を感じられる壁画を飾り、居心地よく過ごせるように工夫している。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ソファや畳敷きのコーナーもあり、気の合う仲間と過ごされている。また、食事のテーブル席も利用者同士の相性も考慮し、席次を考え配置している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 家具や仏壇など、その方の馴染みのある物を持ち込まれ、使用されている。温度や明るさ等の環境にも注意している。</p> <p>(外部評価) 居室はベッド、エアコンを設置しており、各ユニットに畳部屋を2部屋設け利用者の身体状況や生活スタイルに合わせて選択している。使い慣れた寝具や整理ダンス、テレビ、仏壇を持ち込み家族の写真を飾るなど、利用者一人ひとりが穏やかに過ごすことができるように配慮されている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 居室の表札やトイレの表示、必要場所の手摺りの設置などを行っている。 個々に応じた椅子や食卓の高さ、それに合うように車椅子の座面の高さも変え、工夫している。</p>	